

定時制午前部・午後部教育目標		重点目標（中長期的目標）		総合評価			
定時制の特色と単位制の趣旨とを活かして、様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒・保護者に添うとともに、地域に開かれた教育を行う。		定時制の特性を活かした単位制の充実を図るとともに、様々な実態把握に努めながら、生徒が個に応じた学力と社会的習慣とを身につけ、よりよい学校生活を送れるようにする。		三部からなる単位制への移行に努めて3年の区切りを迎え、午前部・午後部ともに初めての卒業生を送り出すこととなった。旧来の昼間定時制のシステムからの転換と個々に即した教育の充実とを最優先課題として、意識改革や緊急に改善を要する問題に対処してきたが、今後はさらに多様な生徒のニーズの把握と、よりきめ細かい対応が求められる。			
		今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策	
		1. 生徒一人ひとりの個性の尊重と自主性の育成 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 基礎学力の定着と進路指導の充実 4. 定通独立校としての特性を意識した新しい学校像の模索		多様な生徒に即した教育活動の充実という面では、今後さらに解決すべき課題が多くある。	B	全日制閉課程に伴う完全移行の中、中・長期的ビジョンから施設の使用に至るまで、校務分掌の組織見直しを含めて、検討の場と時間を確保できるよう努めた。	
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策	
教 育 活 動	教育課程	開講科目の充実	生徒・保護者の願いを踏まえた講座の設定、および編成ができたか。	可能な限り生徒の希望に添う編成に努めた。社会人向けの公開講座も引き続き開設できた。	B	生徒数の増加等、様々な制約の中で困難を伴うが、個に応じた編成に努めたい。新年度も公開講座を計画している。	
	学習指導	基礎・基本の定着	可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開するなどして、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。生徒による授業評価を活用し、授業改善ができたか。	国・数・英の3教科で計 42 講座の習熟度別授業が展開され、基礎力の定着に努めた。個に応じた指導には時間的な制約があった。	B	新課程の「学び直し」に対する職員の意識改革や進路指導との連携、保護者との面談等をさらに充実させる必要がある。	
		個に即した指導	必要とする学力を個に即して着けようとする指導ができたか。				
	生徒指導	社会的習慣が身に付くような事前指導	生徒会と連携し、地域と関わる中で、生徒が社会観を育めたか。生徒指導通信の発行など、啓蒙活動ができたか。	12月の地域清掃活動は、渉外などを通じて生徒が社会観を実感することができた。社会的習慣と学校生活を関連付けた生徒指導通信の発行などで継続した啓蒙活動ができた。	B	より多くの生徒が社会観を育める開発型指導の具体策検討をし、実現のために生徒会などと連携する。	
		一人の生徒に複数の教師の目を向ける指導	年次会・職員相互で連携できたか。情報を共有して指導できたか。	教育実践の中で、職員相互の連携と情報共有に努め、個別に迅速に対応できた。	B	生徒指導通信の発行や人権教育・全校集会などの具体策で、目指す人間像を視野に入れた継続した事前指導をする。	
	特別支援教育	不登校生徒などへの対応（相談・カウンセリング）	情報共有して支援できたか。保護者との連携は強化できたか。外部専門家などと連携できたか。	相談室・保健室が窓口となり、保護者・外部専門家などとの具体的な連携ができた。			
		特別支援学校との連携	支援を必要とする生徒の実態把握、保護者との共通理解、学習支援、進路相談等に活用できたか。	保護者との連携を密にするとともに、松本養護学校の先生に授業を見てもらい支援へのヒントをいただいた。	A	発達障害への理解や、特別支援教育の考え方は浸透してきていると考える。授業や生活場面、進路指導等で、より具体的な支援の方法を探り、外部専門機関のノウハウをより活用していくことが求められる。	
		特別支援のハンドブックの活用	本校独自のハンドブックやシリーズ第3集を活用し、個別の支援計画を作成して支援ができたか。	個別の指導計画をたて職員会で扱い共通理解のもとに進めた。			
		職員研修の企画・実施	特別支援教育の知識・理解を深め、実践に役立つような研修を企画し、多くの職員の参加を得られたか。	WISC-IIIの研修、高校における特別支援の研修ができた。			
	進路指導	コーディネーター養成研修	年5回の養成研修講座やフォローアップ講座に参加し、全職員へ報告できたか。	2年目の研修報告を合同職員会で行えた。			
望ましい職業観・勤労観の育成と進路意識の高揚		卒業までを見通した進路ガイダンスを充実させることができたか。進路希望を実現させるための科目選択や履修指導ができたか。面談、適性検査を通して職業選択できる指導ができたか。	ガイダンスを多く実施できた。進路実現のための学力の向上を図る。進路を具体化させ、目標に適した履修、学習法を身につけさせる。	B	雇用環境が悪化しているなか、就職指導に一層の努力がもたらされる。		
進学指導の充実		定時制ハンドブックを使い、LHRや年次別ガイダンスを充実させ指導できたか。進路指導室の各種情報誌・情報端末利用、説明会などで生徒ひとりひとりに行き届いた指導ができたか。	進学に関する資料を充実させた。	B	進学先に応じたきめ細かな指導を行う。		
就職指導の充実		総合学習やホームルームの進路学習の時間を有効に使用し、各自の進路に対する意識を高めることができたか。就職希望者に対してマナー教育を含めた個別指導を徹底できたか。	面談、適性検査を実施。就職活動支援員の制度が有効に機能し、就職希望者への指導が充実した。	A	マナー教育を含めた個別指導を行う。就職活動支援員の制度は継続したい。		
生徒会活動	くれき野祭の充実	本校に合った独自のスタイルを創り出すことができたか。	午前・午後部、夜間部、通信部の3パートが協力しながら、昨年までの伝統を残しつつ、新たな文化祭の形を作れた。	A	早い時期にすべての役割分担を計画し、3パートの協力態勢を検討したい。		
	委員会活動の充実	多くの生徒が活動に加わり、またHRとの連携ができたか。	例年並の活動を行えた。さらに、文化祭の分担を受け持って協力できた。	B	本部依存にならないで、委員会の仕事は独自で活動をしたい。		
	部活動の位置づけ	今後のあり方や規模について、長い見通しに立って共通認識を深めることができたか。	全国大会に5クラブが出場した。校外の大会に参加するところも出てきた。同好会の要望もあり、活発になっている。	A	部予算が厳しく、どうするのか検討する。部のあり方や活動内容をはっきりさせていく。		
学 校 運 営	地域との連携	公開授業・学校説明会の充実と社会人聴講生の受け入れ	公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。	授業参観を3回実施した。11月の学校説明会は在校生の挨拶が好評だった。	B	社会人向けの公開講座やもの作り講座(松本市共催)は好評であり、今後も継続したい。	
	組織の運営	単位制の一層の充実	「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。	完全移行に伴い、従来までの組織の見直しを急務として取り組んだ。	B	これまで全日制で担ってきた業務の整理統合を含め、学校全体としての組織の再編を行った。	
		校務分掌の検討	仕事の分担は適正だったか。意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。				
	研修	カウンセリング研修	不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。上記生徒へ適切に対応するための研修ができたか。	生徒の情報を交換し、指導上の留意点を共有する必要が以前より増したが、生徒増に伴って困難が生じている。	B	必要に迫られているが、職員全員が参加できる時間設定が難しく、今後の大きな課題である。	
授業法の研修		学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。	校内授業公開を実施し、指導法の研修機会とした。また、生徒への授業評価を調査毎に計4回行い、日々の授業に反映・活用するよう努めた。	B	生徒の実情把握と授業実践に関して、さらに大きな意識改革が職員に求められる。		